

## 仕事と生活、調和のとれた、充実サイクル

### キッコーマン株式会社

#### 企業概要

設立：大正6年（1917年）  
所在地：千葉県野田市野田250  
事業内容：しょうゆ、食品、酒類、  
医療品等の製造及び販売  
従業員数：1,876人  
（男性1,355人、女性521人）  
一般事業主行動計画の策定 有



#### 取組のきっかけ

- 早期に育児休業制度等が導入されるなど、両立支援制度は充実しているが、それをもう一歩すすめて、会社にとっての生産性向上、個人にとっての豊かな人生となるように、制度を再構築をする必要性があった。
- 少子化に伴う生産年齢人口の減少が日本の経済力低下にもつながる可能性がある中で、ワーク・ライフ・バランス施策を通じて実践することが、企業の存在意義であると考えた。

#### 取組状況

- 働き方の改革
  - ・ コース転換制度、キャリアアドバイス制度、短時間勤務制度など、多様性のある働き方支援制度
  - ・ 法を上回る育児支援制度、新卒採用女性比率の増加など、女性が活躍できる環境整備
  - ・ 労働時間管理システムやノー残業デー（毎月19日＝食育“しょく19”）など、時間の有効活用促進策
- 暮らし方の改革
  - ・ 豊富な福利厚生メニュー、リフレッシュ休暇（30代、40代、50代）など、健康で豊かな生活支援制度
  - ・ 通信教育補助制度や選択型研修制度など、人生を充実させるための自己啓発支援制度
  - ・ 育休からの職場復帰支援プログラムや男性の育休促進（短期休職制度）など、仕事と育児の両立支援制度
- 意識改革と啓蒙活動
  - ・ 全社員に育児支援制度に関するパンフレットの配布など

#### 社員の声

- 育児短時間勤務制度を活用しながら復職して1年半経ちました。仕事と育児の両立は大変ですが、職場の理解と社内に同じ環境で頑張っている方が沢山いることで励みになり、充実した会社生活を送っています。

#### 効果と課題

- 【効果】
- 妊娠、出産の報告に対して、「いつまで休むの？」という復帰を前提とした会話を社員同士で交わすのが当たり前の職場風土になった。
  - 男性の育児休職取得者が増えてきた。
- 【課題】
- 時間の有効利用、充実サイクルの考え方について制度・啓蒙活動を通じて浸透させたい。